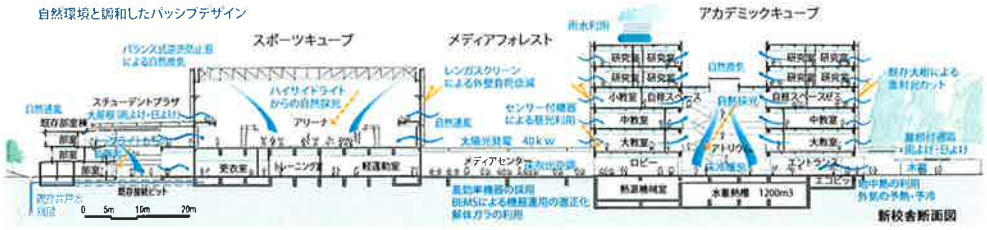
ひとと自然と建築が融合した資産としての風景

立正大学熊谷キャンパス再整備

キャンパスフォレスト内城水道より水路（今回整備）越しに新校舎をのぞむ
多様な生態系を育むキャンパスフォレストの保全とランドスケープ整備が評価され、
大学として初のSEGES（社会・環境貢献緑地評価システム）の認定サイトとなっている。



資産としての風景

開設後 40 年を経た、広大な敷地をもつ郊外型の**キャンパス・リノベーション**である。

熊谷市郊外のこの地域には森が広がり、畑・集落などの生活の場はその森に穿たれた孔のようなパターンを成して、風景をかたち作ってきた。既存キャンパスもこのパターンに倣い、水路を挟んで北側に校舎やグランドが、南側に森が存在した。これを再定義し、広場などランドスケープ整備や**キャンパスの顔：新校舎建設**を行う**アクティブゾーン**と、緑を保全する**キャンパスフォレスト**を**水路**を境に明確に分けた。この２つのゾーンが相互補完し、対となってキャンパスの魅力を高めることで、ひとと自然と建築が融合した資産としての風景を実現した。

ひとの姿がみえるキャンパス

緑豊かな森や桜並木をバックに学生たちの姿が生き生きと映し出される豊かなキャンパスとなった。友人たちと木陰の広場で授業を終えて語らう、水路脇の階段に腰掛け憩うなど、都心のキャンパスでは実現しがたい潤いと活気が享受できる。また、民家や近隣の幼稚園、小中学校、老人ホームなどから市民が自由に集える**公園のような開放性**を実現した。

42%の CO2 削減効果

＊ 大学平均値：（財）省エネルギーセンター「ビルの省エネルギーガイドブック（2010 年度版）」の大学（医療系を除く）より

再整備にあたり、2300 本に及ぶ既存樹の調査及び維持保全、並びに 300 本の新規植樹を行ない、大学として初の SEGES（社会・環境貢献緑地評価システム）認定サイトとなった。自然エネルギー利用の促進や BEMS による監視・省エネチューニングにより新校舎運用開始から１年間の一次エネルギー消費量は 866MJ/ ㎡・年であり、大学の平均値＊より **42%削減**されている。

↑既存水路：整備前
↓水路：整備後

名　称：立正大学熊谷キャンパス再整備
所在地：埼玉県熊谷市万吉 1700
設置される建築／空間／環境の用途
　　：大学キャンパス
規　模：敷地面積 -344,548 ㎡
　　新築延床 - 28,211 ㎡
発注者：学校法人　立正大学学園
設計者：石本建築事務所
　　オンサイト計画設計事務所
施工者：大成建設株式会社